令和　年　月　日

（様式１）

公益財団法人富山県新世紀産業機構

理 事 長　　伍嶋 二美男 殿

住　所

企業名

代表者役職・氏名

令和４年度 ヘルスケア産業育成創出事業（ヘルスケア製品開発特別枠：製品テーマ「フェムテック関連製品」）研究開発提案書の提出について

ヘルスケア産業育成創出事業（ヘルスケア製品開発特別枠：製品テーマ「フェムテック関連製品」）に係る委託事業を実施したいので、下記のとおり書類を添えて提出します。

記

１．研究開発実施計画書

２．決算報告書　（直近１年間の貸借対照表、損益計算書、個別注記表

※ 決算書がない場合は、最近１年間の事業内容の概要を記載した書類）

３．会社概要

４．誓約書（別紙のとおり）

責任者及び事務担当者

・責　任　者　役職・氏名：
（連絡先： － － ）

・事務担当者　所属・氏名：
（連絡先： － － ）

**令和４年度 ヘルスケア産業育成創出事業**

※青字部分は例示です。記入時には削除してください。

**（ヘルスケア製品開発特別枠：製品テーマ「フェムテック関連製品」）**

**研究開発実施計画書**

|  |  |
| --- | --- |
| グループ代表機関 | グループ代表者 |
| 住 所　〒933-0000　高岡市子六家100番地企業名　万葉産業株式会社代表者 役職　代表取締役 TEL：0766-12-3456　FAX：0766-12-7890 | 所属・役職　開発部 部長 TEL：0766-12-3456　FAX：0766-12-7890E-Mail：futagami@man-you.co.jp |

１．研究開発の名称

名称：女性の健康生活をサポートする○○製品の開発

|  |
| --- |
| 本研究の内容について、簡単に（専門外でも理解できるようにわかりやすく）３行程度で記述してください。 |

２．グループの構成

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ※ | 氏　名 | 所属名・役職名・TEL |
| ○ | a 二上 登 | 　万葉産業(株)　開発部　部長　0766-12-3456　futagami@man-you.co.jp |
|  | b 庄川 鮎美 | 　万葉産業株式会社　開発部　主任　同上 |
|  | c 黒部 五郎 | 　立山大学　理工学部　教授　076-555-6789 |

↑※ 当機構との連絡窓口となる方に○を付けてください。

また、その方のE-Mailを記載してください。

．研究開発の実施項目・実施予定

|  |  |
| --- | --- |
| 実 施 項 目 | 具体的内容と参加機関・個人の役割分担 |
| 1. ○○の設計・試作

② ○○の製作③ △△の評価・試験④ ××の分析⑤ 報告書の作成 | ○○の設計し・・・行う。万葉産業㈱a,b、立山大学c○○の組み立て・製作を・・行う。万葉産業㈱b△△の試験し・・評価する。万葉産業㈱b、立山大学c××を▼▼装置で分析する。立山大学c報告書を作成する。万葉産業㈱a,b、立山大学c |
| 　　・実施予定（月）　　　　　　　　　　　　　　実施項目（上記連動） | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ | 10 | 11 | 12 | １ | ２ | ３ |
| ＜令和４年度＞① ○○の設計・試作③ △△の評価・試験⑤ 報告書の作成＜令和５年度＞② ○○の製作③ △△の評価・試験④ ××の分析⑤ 報告書の作成 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

４．研究開発の概要（実施内容等が分かるように、まとめてください）

（１）本研究開発が想定する現場の現状、ニーズ並びに開発の効果

・想定している現場の現状とニーズ、並びに本研究開発による効果等を記述してください。

例：病院の○○現場では、○○に苦慮しており、○○できる技術・製品が求められている。そこで、○○技術により問題の解決を図る。

（２）新規性・独創性（開発する技術・製品と従来技術・製品の違う所は何か？）

例：従来の〇〇（製品）は〇〇という問題点があった。そこで〇〇することにより、従来にはない新規性・独創性の高い製品を開発する。

（３）他機関との連携

例：・産業技術研究開発センター生活工学研究所ヘルスケア研究開発棟の○○設備を活用し、計測データをふまえた他社製品との差別化を図る。

・○○病院の産婦人科施設を活用し、実用性能を実際の現場で検証する。

　・○○大学にて、○○技術による研究開発支援並びに開発品の検証実験を行う。

（４）本研究開発における実施事項（達成目標の実現手段として、具体的に記入ください）

・研究開発の実施事項については、前述「４．研究開発の実施項目・実施予定」の各項目（①～⑤の例）と整合性を取ってください。

・研究開発の実施事項について箇条書きで記述し、その具体的な内容等を記述してください。

例：△△法による○○の改良

○○については△△法を適用することで、従来の10倍の0.001mm以下の精度を達成する。

（５）説明図表

・前項までに説明した内容を、図、表、写真等を用いてわかりやすく説明してください。

（６）商品化・事業化への見通しと計画（具体的に）

　　例：当社では○○技術を有しており、○○に関する開発実績等から商品化に係る十分な技術力を有する。また、○○することにより生産体制を整え、独自の販売網を構築することにより、開発期間終了後、速やかに事業化を図る。

事業終了後の計画（記載例）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施項目（例） | １年目 | ２年目 |
| ・ 試作品評価・ 実証試験・ 量産化準備・ マーケティング・販売計画立案・ 販売開始 |  |  |  |  |

・事業終了後、その成果をもとに商品化・事業化までの具体的な計画（スケジュール、販売対象、方法、関係企業や関係機関等との協力体制など）について、現場ニーズにあった即応性の高い研究開発の観点から記述してください。

５．専門用語等の解説

・〇〇技術とは・・・・・

６．関連した補助金等の申請・受け入れ実績

・「〇〇技術の開発」平成○年、富山県◇◇補助金

８．収支予算書　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（令和４年度）

【収入】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区　分 | 予算額（千円） | 備考 |
| 委託費 | 5,000 | 提案額 |
| 合　計 | 5,000 |  |

【支出】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 経費区分 | 予算額※1（千円） | 算出基礎（円） | 備考 |
| 旅　費 | 180 | 県外（東京等）30,000円×2人×2回＝120,000円県内　　　　　3,000円×2人×10回＝60,000円 | 展示会での情報収集 |
| 通信運搬費 | 15 | 宅急便代　　　1,500円×10回＝15,000円 | 資料送付 |
| 消耗品費 | 403 | 樹脂材料　（○○） 3,000円×50kg＝150,000円添加剤（△△－□□）2,000円×100g＝200,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| 工具器具費 | 500 | 表面温度計　 　20,000円×１個＝20,000円硬度計　　　　　10,000円×1個＝10,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| リース･レンタル費 | 900 | 身体計測機器　　50,000円×10月＝500,000円試験用ベッド　　40,000円×10月＝400,000円 | 10ヵ月 |
| ソフトウェア開発費 | 784 | 〇等級単価適用者（日給・時給制以外の健保加入者）3,280円（労務費単価）×100時間（従事時間）＝328,000円〇月給単価適用者（年俸制・月給制の健保非加入者）　2,560円（労務費単価）×100時間（従事時間）＝256,000円〇個別単価適用者（日給制・時給制の者全て）2,000円（労務費単価）×100時間（従事時間）＝200,000円 | ※別に定める「従事時間見積表」、「職務経歴書」も併せて提出してください。 |
| 専門家等謝金・旅費 | 113 | 謝金　　　　　　　　30,000円×2回＝60,000円旅費(富山-東京日帰り)26,200円×2回＝52,400円 |  |
| 外注費・再委託費 | 455 | 装置制御部組上げ　　455,000円×1式＝455,000円 |  |
| 共同研究費 | 1,650 | 下記、共同研究先経費を参照 | 立山大学 |
| 合　計 | 5,000 |  |  |

共同研究先経費（国立大学法人立山大学）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 経費区分 | 予算額※1（千円） | 算出基礎（円） | 備考 |
| 旅費 | 90 | 県外（東京等）30,000円×1人×2回＝60,000円県内　　　　　3,000円×1人×10回＝30,000円 | 学会参加 |
| 通信運搬費 | 15 | 宅急便代　 1,500円×10回＝15,000円 | 資料送付 |
| 消耗品費 | 679 | 電気関連部品（○○）3,000円×20個＝150,000円配線（△△△－□□）2,000円×20 個＝200,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| リース･レンタル費 | 300 | 温湿度発生器　　　30,000円×10月＝300,000円 | 10ヵ月 |
| 工具器具費 | 200 | 攪拌容器　　　5,000円×2個＝10,000円計量天秤　　　10,000円×1個＝10,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| 専門家等謝金・旅費 | 56 | 謝金　　　　　　　　30,000円×1回＝30,000円旅費(富山-東京日帰り)26,200円×1回＝26,200円 |  |
| 外注費 | 160 | 試作用金型 80,000円×２個＝160,000円 |  |
| 管理費 ※2 | 150 | 　　　（小計　1,500,000円×0.1） |  |
| 合　計 | 1,650 |  |  |

※1 予算額の金額は、算出基礎欄合計額の千円未満を切り上げてください。

※2 ただし、共同研究先経費の管理費は、直接経費合計額の10％以内とします。

注：共同研究先が複数ある場合は、共同研究先ごとに経費内訳を記載してください。

（令和５年度）

【収入】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区　分 | 予算額（千円） | 備考 |
| 委託費 | 5,000 | 提案額 |
| 合　計 | 5,000 |  |

【支出】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 経費区分 | 予算額※1（千円） | 算出基礎（円） | 備考 |
| 旅　費 | 180 | 県外（東京等）30,000円×2人×2回＝120,000円県内　　　　　3,000円×2人×10回＝60,000円 | 学会参加 |
| 通信運搬費 | 15 | 宅急便代　　　1,500円×10回＝15,000円 | 資料送付 |
| 消耗品費 | 403 | 樹脂材料　（○○） 3,000円×50kg＝150,000円添加剤（△△－□□）2,000円×100g＝200,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| 工具器具費 | 500 | 表面温度計　 　20,000円×１個＝20,000円粘度計　　　　　10,000円×1個＝10,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| リース･レンタル費 | 900 | 身体計測機器　　50,000円×10月＝500,000円試験用ベッド　　40,000円×10月＝400,000円 | 10ヵ月 |
| ソフトウェア開発費 | 784 | 〇等級単価適用者（日給・時給制以外の健保加入者）3,280円（労務費単価）×100時間（従事時間）＝328,000円〇月給単価適用者（年俸制・月給制の健保非加入者）　2,560円（労務費単価）×100時間（従事時間）＝256,000円〇個別単価適用者（日給制・時給制の者全て）2,000円（労務費単価）×100時間（従事時間）＝200,000円 | ※別に定める「従事時間見積表」、「職務経歴書」も併せて提出してください。 |
| 専門家等謝金・旅費 | 113 | 謝金　　　　　　　　30,000円×2回＝60,000円旅費(富山-東京日帰り)26,200円×2回＝52,400円 |  |
| 外注費・再委託費 | 455 | 装置制御部組上げ　455,000円×1式＝455,000円 |  |
| 共同研究費 | 1,650 | 下記、共同研究先経費を参照 | 立山大学 |
| 合　計 | 5,000 |  |  |

共同研究先経費（国立大学法人立山大学）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 経費区分 | 予算額※1（千円） | 算出基礎（円） | 備考 |
| 旅費 | 90 | 県外（東京等）30,000円×1人×2回＝60,000円県内　　　　　3,000円×1人×10回＝30,000円 | 学会参加 |
| 通信運搬費 | 15 | 宅急便代　 1,500円×10回＝15,000円 | 資料送付 |
| 消耗品費 | 679 | 電気関連部品（○○）3,000円×20個＝150,000円配線（△△△－□□）2,000円×20 個＝200,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| リース･レンタル費 | 300 | ボールミル　　30,000円×10月＝300,000円 | 10ヵ月 |
| 工具器具費 | 200 | 攪拌容器　　　5,000円×2個＝10,000円計量天秤　　　10,000円×1個＝10,000円・・・・・・　　　 ・・・・×・・＝・・・・円 |  |
| 専門家等謝金・旅費 | 56 | 謝金　　　　　　　　30,000円×1回＝30,000円旅費(富山-東京日帰り)26,200円×1回＝26,200円 |  |
| 外注費 | 160 | 試作用金型 80,000円×２個＝160,000円 |  |
| 管理費 ※2 | 150 | 　　　（小計　1,500,000円×0.1） |  |
| 合　計 | 1,650 |  |  |

※1 予算額の金額は、算出基礎欄合計額の千円未満を切り上げてください。

※2 ただし、共同研究先経費の管理費は、直接経費合計額の10％以内とします。

注：共同研究先が複数ある場合は、共同研究先ごとに経費内訳を記載してください。

誓 約 書

（別紙）

|  |
| --- |
| [ ] １．当社は次の（１）～（５）のすべてに該当せず、今後においても反社会的勢力との関係を持つ意思がないことを確約します。（１）役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第77号（以下「暴力団対策法」という））第２条第６号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という）であると認められる者。（２）暴力団（暴力団対策法第２条第２号に規定する暴力団をいう。以下同じ）または暴力団員が経営に実質的に関与していると認められる者。（３）役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められる場合。（４）役員等が暴力団または暴力団員に対して資金等を供給し、または便宜を供与するなど、直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められる者。（５）役員等が暴力団または暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められる者。[ ] ２．当社は、現在、本事業に関連しての訴訟による係争はなく事業運営に支障のないことを確約します。[ ] ３．当社は、現在、本事業に関連した法令違反による処罰を受けておらず、事業運営に支障のないことを確約します。[ ] ４．当社は、本事業による対象経費について、国や県等から他の補助金を受けておらず、また受ける予定のないことを確約します。[ ] ５．当社は、本事業に関する審査に必要な書類等を整備保管し、国や県等による実地検査の受け入れに協力します。 |

※ 該当項目の□にチェックを入れてください。要件に欠落があった場合には、本事業の対象とできません。採択後であっても欠落が判明した場合には、採択を取り消すことになりますので、間違いのないようにご記入ください。